

中国「旧満州開拓団」墓地



中国東北部・黒竜江省に、敗戦の混乱で命を落とした旧満州開拓団員を弔う墓地がある。日本人のために造られた中国唯一の公営墓地だ。傷みが激しいため、地元の自治体が補修工事を進め、日本でも募金活動が始まるなど関心が高まっている。ちょうどアジア重視を掲げる民主党政権が誕生。関係者は鳩山由紀夫首相の同墓地参拝実現に向けた運動も始めている。(外報部・五味洋治)

墓地は、省都ハルビンから車で三時間ほどの方正県にある。戦後、旧満州で飢えや病気により亡くなった約四千五百体の日本人の遺骨が発見された。故周恩来首相の後押しで、同県政府が一九六三年、三・三万の墓碑を建立。周辺を墓地として整備、管理してきた。二〇〇五年、日本側で「方正友好交流の会」(東京都千代田区、大類善啓事務局長)が発足し、方正県と幅広い交流を行っている。墓は、今年公開された記録映画「嗚呼 満蒙開拓団」(羽田澄子監督)でも取り上げられ、広く存在が知られるようになった。しかし四十年以上が経過して納骨部分に漏水が起き、周囲の植栽や垣根なども修繕が必要となった。経費は、日本円で約六十万円かかる見通しだ。

「友愛」に応え 首相訪問を

修繕機に日本の団体申し入れ



地元の人たちが管理している黒竜江省方正県の公営日本人墓地。大類さん提供

ほしい」との要請書を送った。日本の首相が、方正県に来て感謝の言葉を述べれば、鳩山首相の参拝に期待を寄せた。

故周首相建立後押し 40年経過し老朽化

方正県外事弁公室の王偉 大類さんは「われわれが日本人の墓を建て、守ってきたのは友愛の心からです」。募金は十分集まっていないが「不足分は県政府が負担する予定」と話す。方正友好の会も最近、十万円を贈った。鳩山首相側に「中国を訪問する機会に公墓も参拝して

ば、両国関係発展の土台になる」(大類さん)ためだ。中国の女性と結婚し、方正県に住む吉岡宏幸さん(三七)「広島県出身」も「日本人の墓を守ってくれている親日的な中国人がいる。それを多くの日本人に知ってほしい」と、鳩山首相の参拝に期待を寄せた。

旧満州の邦人墓地支援へ

一日本政府が管理費一部負担

【北京時事 10 月 13 日発】

中国東北部（旧満州）に入植し、終戦の混乱で死亡した日本人を埋葬するため、中国側が黒竜江省方正県に建立した「日本人公簿墓」に対して、日本政府が維持管理費の一部を支援することが 13 日、分かった。

方正県では終戦直後、日本に引き揚げる予定の入植者ら約 5000 人が厳寒の中、飢えや病気などで死亡した。生き延びた日本人残留婦人らの要望と「日本人民も日本軍国主義の被害者だ」という当時の周恩来首相の指示を受けて、県政府は 1963 年、遺骨を埋葬して高さ約 3メートルの墓石を建立。近くの麻山地区で集団自決した、約 500 人の墓石も 84 年に建てられた。

中国側が日本人のために建立した唯一の共同墓地で、これまでは方正県政府が年間約 20 万元（約 260 万円）の管理費を全額負担してきたが、県政府の要請を受け、瀋陽の日本総領事館は海外にある日本人公墓の維持管理費として、今年度下半期に、1 万 7500 元（約 23 万円）を支援することにした。来年度以降も継続する見通し。

方正県外事僑務弁公室の王偉新主任は、「日本政府の支援に感謝している。戦争の歴史を忘れないため、公墓を中心に日中友好園林を整備しており、日本からも多くの人に来てもらいたい」と話している。

<注：外務省・中国・モンゴル課の担当者の言によれば、政府の公墓支援記事の中では、この時事通信の原稿が最も正確な記事だということである>

中国東北部（旧満州）の黒竜江省・方正県で、敗戦時に死亡した日本人入植者の慰霊のために建てられた「日本人公墓」（共同墓地）に、日本政府が初めて維持管理費を支援することになった。中国側が日本人のために建てた唯一の墓として知られ、これまでは方正県政府が全額負担してきた。地元では「改めて中日友好の礎にしたい」と歓迎の声があがっている。（方正県で 牧野田亨、写真も）

敗戦の混乱のなか、方正県では厳寒と飢え、伝染病で入植者たちが次々に死亡。その数は約 5000 人になる。生き延びた入植者の要望を受け、県政府は 1963 年、「日本人入植者も日本軍国主義の犠牲者だ」として遺骨を埋葬、高さ約 3 メートルの墓石を建てた。別の麻山地区で集団自決した約 500 人の墓石も隣に建てた。

日本に戻れなかった入植者たちは残留婦人や残留孤児となった。公墓近くには、国交回復後に帰国した残留孤児が、中国人養父母を追悼する墓石を建立。一帯は

中国建設の日本人慰霊墓

日本が管理費支援



「中日友好園林」（約 1 万 4000 平方メートル）として整備され、日本から毎年、遺族ら約 1000 人が訪れる。方正県からも親族訪問などで年間約 2000 人が日本を訪問し、友好の歴史に根ざした交流が続いている。

県政府によると、常駐の管理人が清掃などを担当



方正県政府が管理を続けてきた日本人公墓

し、維持管理費は年間約 20 万元（約 260 万円）。2 年前には約 700 万元（約 9100 万円）かけて園林に至る農道を舗装し、利便

性を高めた。ただ、農業中心の県の財政は厳しく、今年に入って日本政府に費用の一部負担を打診。日本政府は 40 年以上もきちんと管理されてきた経緯を踏まえ、9 月末、日本人公墓の維持管理費として年間 3 万 5000 元（約 50 万円）を支援することにした。

県政府の王偉新・外事弁公室主任 38 は「日本の支援は大きな助けとなる。中日の懸け橋として、園林の役割は一層高まるだろう」と話している。

★日本人墓地に支援
日本外務省は十日、中国東北部の黒竜江省方正県にある旧満州開拓団員を弔う墓地への支援を決め、同県政府に通知した。日本人のために造られた中国唯一の公営墓地とされるこの墓は、一九六三年に同県政府が建立、維持管理を続けてきたが、傷みが激しいため、日本政府などに援助を申し出ていた。

第二次大戦で亡くなった日本人を慰霊する墓地はシンガポールなどにあり外務省は維持費を援助しているが、日本政府や日本人が建てたものに限られていた。援助額は年間三万五千元(約五十万円)。外務省は、県政府から管理状況の報告を受けながら、来年度以降、正式に予算化する。

(外報部・五味洋治)

社団法人日中友好協会・機関紙

「日本と中国」2009年10月25日付掲載

方正県の日本人公墓維持に 日本政府が支援



方正県への思いを語る
加藤会長。10月19日

加藤会長が強く働きかける

日本人公墓は、1963年に中国政府が建立。方正県政府は、年間約20万元(約260万円)をかけて、この共同墓地を管理してきた。日本からは毎年、1000人以上の遺族が墓参りに訪れ、いまや日中友好交流の重要な場所となっている。

日本政府は今回、年間3万5000元(約50万円)を支援することを決定。来年度以降

中国・黒竜江省ハルビン市の方正県にある日本人入植者約5000人が眠る日本人公墓に対し、日本政府は初めて維持管理費を支援することを決めた。加藤統一協会会長は、外務省に政府の支援を強く働きかけたという背景がある。加藤会長のその思いを聞いた。

に正式に予算化する。「胸のつかえがとれた」

加藤会長は外務省勤務の1960年代後半、駐香港総領事館で残留邦人の帰国に携わった。このことで方正県には強い関心をもっていたという。その後、2003年に加藤会長は地元・山形の住民と初めて方正県を訪れた。公墓や記念館を回った。中国政府の建立については、このとき初めて知った。

ことしになって、同県政府が公墓の管理費用の援助を日本に求めていることを、方正友好交流の会の大類善啓氏らを通じて知った。加藤会長は「いまこそやるべき」と思い、外務省へ強く働きかけたという。「胸のつかえが少しとれた」と、加藤会長は思いを語った。

開拓団墓地 首相参拝を

司書 小松 陽子 49 (神奈川県三浦市)
中国が黒竜江省に造った旧満州開拓団員墓地の補修を地元自治体が進め、日本政府も支援すると、4日付と11日付国際面にあった。この夏、映画「嗚呼満蒙開拓団」を見た。生存者の証言は、衝撃的だった。国策による入植にもかかわらず、敗戦により日本政府に見捨てられ、亡くなられた開拓団の方々。その方たちの公墓

が、中国政府によって建立され、今も地域の人々に大事に守られていることを知り、深い感銘を受けた。首相には、日本政府の代表として、ぜひ、公墓の参拝をお願いしたい。亡くなられた開拓団民は、今度こそ、日本政府に見捨てられないことを、祈っているに違いない。

10月12日付人民日報社発行『環球時報』（蔣豊氏執筆）の翻訳

「中国にある日本人公墓、日本政府が資金援助」

在华日本人公墓 获日本政府资助

本报驻日本特约记者 蒋丰

在中国黑龙江省方正县内，有一座“日本人公墓”。它是1963年中国政府批准为日本残留孤儿和妇女修建的，是世界上绝无仅有的由受害国政府为战争发动国遇难侨民修建的公墓，被视为中国人民宽容的见证。40多年来，这个公墓一直处于被日本政府遗忘的角落。但据日本《读卖新闻》10日报道，最近，日本政府决定对这座公墓在维修管理费用上给予一定援助。

据该报报道，1945年日本战败时，许多日本女性、孤儿没有能够回到日本。在方正县因寒冷、饥饿、传染病等死亡的日本人多达5000多人。1963年，周恩来总理指出，“日本人民也是军国主义的受害者”。在他的批准下，方正县兴建了一座写有3米高标识的“方正地区日本人公墓”。在邻近的麻山地区，当地政府还为集体自杀的大约500名日本人建立了一块墓石。这是中国方面为日本人兴建的唯一一座公墓。

这篇由《读卖新闻》驻华记者采写的报道称，在公墓附近，还有在1972年中日恢复邦交以后回国的日本“战争孤儿”为中国养父母们兴建的墓石。公墓周围有大约1.4万平方米的“中日友好园林”。如今，日本每年大约有1000多名遗属到方正县扫墓，方正县每年也大约有2000多人到日本探亲访友。这里已成为中日友好交流的重要地区。

该报道援引方正县政府的介绍说，这个公墓一直都有人常驻，负责清扫等工作。每年维护管理费用大约需要20万元人民币。大约两年前，当地政府出资700万元人民币铺设了通往公墓的道路，更加方便了日本人的扫墓活动。

报道说，作为农业大县的方正县，近年来财政并不宽裕。今年曾经通过有关渠道向日本方面征询：日本政府能否支援一部分管理费用。日本政府有关部门研究后认为，中国方面40多年来为了维护这个公墓作出很大的努力，日本应该对此表示感谢。9月底，日本政府表示，今年支出50万日元（约合3.5万元人民币），作为今年支援公墓维护管理费的一部分。

《环球时报》记者11日致电方正县外事侨务办公室了解到，方正县目前有3.5万人在日本，该县正利用这一特点，全力打造“东北旅日侨乡”。▲

中国黑龙江省方正县に「日本人公墓」がある。これは1963年、中国政府が許可し、日本の残留孤児と残留婦人のために建立されたものであり、世界で唯一の、戦争の被害を受けた国の政府が戦争を發動した国の被害者のために建立した公墓であり、中国人民の寛容さの証と見ることができるだろう。この公墓は、過去40年以上にわたり、日本政府によって忘れられ見落とされてきた。

10月10日付、日本の「読売新聞」の報道によると、最近、日本政府はその日本人公墓に対して、維持管理費用の一部を支援することを決定した。

この報道によれば、1945年の日本の敗戦時、数多くの日本人女性や孤児が日本に帰れず、方正県で寒さや飢え、伝染病などによって、約5,000人以上が死亡した。1963年、当時の周恩来総理は、「日本国民も（日本）軍国主義の被害者である」として、方正県政府に対して、高さ3メートルの「方正地区日本人公墓」の建立を許可した。また、方正県政府は、近くの麻山地区で集団自決した約500人の日本人のために、一基のお墓を建立した。これらは、中国側が日本人のために作った唯一の公設墓地である（訳注：「麻山地区日本人墓地」は、「方正地区日本人墓地」の隣に建立されている）。

読売新聞のこの中国駐在記者が書いた記事によれば、この公墓の隣には、1972年の日中国交回復以降、日本に帰国した日本の「残留孤児」が設置した中国の養父母のための墓があり、これら墓地の周囲一帯は、広さ約1,4万平方メートルの「中日友好園林」として整備されており、現在、日本から毎年1,000人以上の遺族が

墓参に訪れ、また方正県からも毎年、2,000人余りが親戚や友人を訪ねて日本へ行っているなど、方正県は日中友好交流の重要な場所となっている。

報道によれば、方正県政府は次のように説明をしている。この公墓には管理人を常駐させ清掃などに当たらせている。維持管理費用は年間約20万人民元（約260万円）である。また、方正県政府は2年前、約700万元（約9,100万円）を支出して、公墓につながる道路を建設し、日本人の墓参が更に便利になった。しかし、農業県である方正県の近年の財政には余裕がなく、今年、あるルートを通じて、日本政府が公墓の維持管理費用の一部を支援してもらえるかどうか尋ねたところ、日本政府の関係部門はこれを検討し、次のように判断した。中国側が40年以上にわたり、この日本人墓地の維持管理に最大限努力してきたことに対して、日本政府は感謝の意を表明し、9月末、日本人墓地の維持管理費用として、今年（09年）の公墓維持管理費の一部として日本円で50万円（約3.5万元）を支援することにした。

「環球時報」記者は11日、電話で方正県政府外事僑務弁公室に取材したところ、現在約3万5,000人の方正県出身者が日本で生活しており、方正県では「(中国) 東北部の在日華僑の故郷」づくりに全力で取り組んでいるということである。

黒竜江省 満州開拓団の墓地

【北京共同】中国黒竜江省方正県が、敗戦時の引き揚げ途中に死亡した旧満州開拓団員の慰霊のために建てた共同墓地「日本人公墓」に、日本政府が維持管理費の支援を始めた。これまでは同県が年間約20万円(約260万円)の管理費を全額負担しており、支援決定に地元からは歓迎の声が上がっている。

旧関東軍の補給基地があった方正県には旧ソ連軍の侵攻後、長野や山形などの開拓団員らが

維持管理費 日本が支援



集まったが、飢えや寒さにより約5千人が死亡。県政府は「開拓民も戦争の犠牲者」との考えから、故周恩来首相の承認を得て1963年に遺骨を埋葬、墓石を建立した。公墓は中国側が日本人のためにつくった唯一の公営墓地とされる。

県政府はこれまで管理費のほか、墓参りに訪れる日本人遺族らのために道路を舗装。しかし財政は厳しく、今年に入り日本政府に支援を要請、10月から四半期ごとに8750元が支払われることになった。

県政府の王偉新・外事弁公室主任は「日本の支援は助かる」と喜ぶが、支援が決まっているのは来年3月までで新年度の継続は未定だ。王主任は、「日本の支援が途切れても墓は守っていくが、日中友好のためにも継続してくれたら」と話した。

県開拓自興会長「意義深い」

長野県からは、全国都道府県で最多の約3万3千人が満蒙開拓団に参加した。元開拓団員らでつくる県開拓自興会の永原今朝男会長(79)は、上高井郡高山村は、日本政府による日本人公墓の維持管理支援について「日本人を慰霊する施設であり、日本政府が一定の助成金を出すのは当然。歓迎したい」と話す。同会は2007年、会結成60周年記念で訪中し、日本人公墓前で慰霊行事をした。永原さんは、黒竜江省政府や方正県政府の歓迎を受け、親善を深めたと振り返り、「日中友好の観点からも、日本政府が公墓の維持にかかわるのは意義深い。来年度以降も支援を続けてほしい」と求めている。



中国黒竜江省方正県にある旧満州開拓団員を弔う共同墓地「日本人公墓」(共同)